

池田
觀述

修身小學讀本

中等科第三級
卷十



K110.1

153a

明治十五年十月再版

從四位福羽美靜閱 三尾重定剛定
東京帝國大學校長 那珂通世校正 池田觀纂述

修身小學讀本

版權所有 東崖堂刊行

修身小學讀本

此卷ハ 兒童ノシテ 禮義ヲ重ジ 廉耻ヲ知リ。 職務ヲ 勉メテ 志ヲ勵シテ 撓ムナク。 言ニ訥ニシテ 行ヒニ敏ク 善ヲ為スニ勇ミ。 過ヲ改ムルニ吝スルコトナク 卑怯懦弱ノ行ヒヲ戒シメ 直諫單純ノ人ヲ為ラシメンコトヲ 旨トシ 中等學科 第三級生ノ用ニ供ゼン

トス。

修身小學讀本 緒言

修身小學讀本卷之十

福羽美静 閱

三尾重定 刪定

那珂通世 校正

池田

觀纂述

第十九章 禮讓

禮ハ人世ノ基本ニシテ。人ノ人タル所以ヲ表セルモノナリ。故ニ古語ニ人トシテ。禮ナキハ禽獸ニ異ナラスト云ヘリ。

人動モスレハ。輒己カ才徳如何ヲ察セスシテ。妄ニ尊貴ニ詔ヒ。神明ニ禱リ以テ。私慾ヲ

達セント欲ス。何ソ昏愚ノ甚シキ。一二茲ニ至レルヤ。君子禮ニ非サレバ受ケス。禮ニ非サレハ聽カス。人尚然リ。而ルヲ況ヤ神明ヲヤ。先哲曰ク。人ニ禮法アルハ。猶水ニ堤防アルカ如シ。水ニ堤防アレハ。汎濫ノ患ヒナク。人ニ禮法アレハ。惡道ニ入ルノ畏レナシ。

孟子曰ク。下ヲ以テ上ヲ敬フ。之ヲ尊キヲ貴フトイヒ。上ヲ以テ下ヲ敬フ。之ヲ賢ヲ貴フト云。諸葛亮孔明ハ原陽都縣ノ農夫ナリ。天性穎

敏ニシテ。學博ク。特ニ兵法ニ至ツテハ。古今獨歩ト。稱セラレシ俊傑ナリ。時ニ天下擾亂シテ。爭戰熄マス。英雄四方ニ割據シテ。漢室有レトモ無キカ如シ。涿郡ノ劉備之ヲ歎キ。義兵ヲ起シテ。新野ニ屯シ。專ラ希世ノ英傑ヲ求ム。因テ隱士司馬徽ノ家ニ至リテ。時事ヲ質ス。司馬徽曰ク。儒生豈時務ヲ知ランヤ。之ヲ知ルハ俊傑ニアリ。諸葛孔明其ノ人歟。將軍多ク孔明ヲ召シテ。謀ルベシト。劉備拜シ

テ孔明ノ許ニ往ク。ニタビニシテ。初メテ之ヲ見ル事ヲ得タリ。是ニ於テ漢室ヲ恢復シ。奸臣ヲ誅除スルノ策ヲ問フ。孔明其ノ高義ニ感シ。出テ劉備ニ仕ヘ。忠誠ヲ以テ之ヲ輔ケ。漢中ヲ定メ。巴蜀ヲ取レリ。魏王曹丕漢帝ヲ廢シテ位ヲ奪フニ及ヒ。劉備ヲ獎メテ。帝位ニ即シム。劉備乃孔明ヲ以テ丞相トナシ。大政一ニ之ニ依頼セリ。實ニ劉備ノ如キハ。能ク賢ヲ貴フ人トイフベシ。藤原鎌足。蘇我蝦夷父子。暴威ヲ逞フシ。非望

ヲ企テ。覬覦ノ念ヲ興セルニ方ツテ。ヒソカニ以爲ク。我レ之ヲ誅セスンハ。天地ノ間ニ立ツ可ラスト。詔シテ神祇伯トセララル。モ疾ト稱シテ。參朝セス。然ルニ皇子中大兄。寬仁ニシテ大度アルヲ察シ。供ニ事ヲ舉ンコトヲ欲スレトモ。意匠ヲ告ルニ絲アラス。一日皇子法興寺ニ遊ヒテ。蹴鞠ス。鎌足亦之ニ從フ。偶皇子ノ靴脱シテ。鎌足ノ前ニ轉轍セリ。鎌足直ニ之ヲ拾ヒ。跪キテ皇子ニ進メケ

レハ皇子モ亦跪キテ之ヲ受ク。是ヨリ始メテ親近スルヲ得。與ニ籌策ヲ旋シタリ。然レトモ屢往返スルヲ憚リ。車ヲ同シウシテ。南淵先生ノ許ニ至リテ。經ヲ受ケ。車中密ニ之ヲ謀リ。遂ニ入鹿ヲ大極殿ニ誅戮セリ。彼ノ鎌足カ跪テ。靴ヲ皇子ニ奉リ。皇子モ亦跪テ之ヲ受ケ給ヒシハ。實ニ禮アル舉止ナラスヤ

第二十章 清廉

清廉トハ。直實廉潔ニシテ。義ニアラザレハ。

一介モ人ニ取ラザルヲイフ。前章節義中ノ一端ナリ。凡ソ人ノ良心ヲ害シ。仁義道德ノ累ヲナスモノ。皆是一個ノ慾心ナリ。而シテ其ノ慾心亦類多シト雖。貨賄ヲ貪リテ厭クコトナキ。之ヲ利欲ト云フ。古ヨリ利欲ノタメニ。其ノ身ヲ過ツモノ鮮ナカラス。古人イハズヤ。得ルヲ見テ義ヲ思フト。詢ニ服膺ススベキナリ。

源頼朝途ニ僧西行ニ遇フ。乃延テ館ニ還リ。

請フテ武事ヲ談セシム。西行曰ク家ヲ出シヨリ以來。既ニ之ヲ廢棄セリト。然レドモ甚ク拒マズ。タメニ兵ヲ談ズル。一夜ニシテ辭シ出ツ。頼朝贈ルニ銀猫ヲ以ス。西行受テ門ヲ出テ。童子ニ與ヘテ去ルト云。

北條泰時ハ。治事ニ練達シ。特ニ清廉ヲ以自ラ居ル。然ルニ珍奇ヲ贈ル者アリ。悦バズシテ曰ク。君ノ贈ル所。價應ニ高貴ナルベシ。是レ我レニ益ナクシテ。君ニ損アリ。寧ゾ玩好ヲ以テ。相共ニ清ヲ穢ス可

ケンヤト。盡ク金ヲ出シテ之ヲ償フ。爾後賄ヲ行フ者ナシ。

小島蕉園ハ。武藏國江戸ノ人ナリ。稟性清介ニシテ。治民ノ才アリ。嘗テ田安侯ノ税官トナリテ。甲斐ノ國ニ如ク。甲斐ノ民俗頑悍ニシテ。頗ル治メ難キヲキ。府ニ入ルヤ。首トシテ民ノ利病ヲ察シ。精ヲ勵マシテ治ヲ講ズ。未數歳ナラズシテ。徳化部内ニ洋溢シ。人稱シテ神明トス。ノチ職ヲ辭シテ。江戸ニ還

磯野弘道ニ從テ醫ヲ學ビ。本郷竹町ニ僑居ス。屋宇短陋。僅ニ風雨ヲ蔽フノミ。甲斐ノ父老相語テイハク。吾黨ノ今日アルハ。小島君ノ惠ニ頼レリ。頃日内閨ヲ失ヒ。且貧窶極レリトキケリ。報酬セザル可カラズト。甲唱へ。乙利シテ。立ドコロニ百金ヲ得タリ。是ニ於テ。其ノ面ヲ識ル者三人。金ヲ齎シテ江戸ニ來リ。竹町ノ寓居ヲ訪フ。母出テコレニ應ズルニ。三士地ニ伏シテ恩ヲ謝シ。金ヲ出シ

テ進メケレバ。母嗟嘆良久ウシ。厚意ハ謝スルニ辭ナシ。然レドモ我が兒狷介。人ノ惠ニ當ルコトヲ好マズ。然ルニ今家ニアラザレバ。吾レ假ニコレヲ截メテ。其ノ還ルヲ待シ。願ハクハマタ明日來ラレヨトイヒシカバ。皆拜謝シテ去レリ。蕉園還リテコレヲキハ。亦嗟嘆シテ曰ク。方今ノ輕薄ナル。歳ヲ逐フテ甚シク。儼然タル士太夫モ。徳義ノ何タルヲ知ラザルガ如シ。何ゾ况ヤ頑悍ニシテ化シ

易カラス。甲民ノ如キニ於テオヤ。而シテ。今
斯ノゴトク。亦以テ尊旨ヲ慰スルニ足レリ。
然レドモ民ノ物。一介ヲモ受ルヲ欲セズ。矧
ヤ百金ノ重キヲヤ。尊慮果シテイカントト
ヘバ。母ノ曰。吾固ヨリ其ノ然ルヲシル。然レ
ドモ直チニ。コレヲ卻グルハ。其ノ厚意ヲ傷
リ。且專断事ヲ處スルモ。道ニアラズト思ヒ。權
リニ收メタルノミト。蕉園大ニ喜ビ。然ラバ
之ニ飲食セシメ。勞フニ人事ヲ以テセント

テ。自ラ往キテ團扇ト酒肴トヲ買ヒ。料理シ
テ其ノ來ルヲマツ。既ニシテ三士來リ。膝行
シテ恩ヲ謝ス。蕉園モ亦コレヲ慰勞シテ。共
ニ往事ヲ語り。飲食ヲ侑メ。且團扇ヲ出シテ
貽ル。情意極メテ厚ク。皆感泣シテ言フ。處ヲ
知ラス。時ニ蕉園容ヲ改メテ。君等舊好ヲ忘
レズ。數里ヲ遠シトセズシテ來リ。醵金ヲモ
テ。吾ガ窮乏ヲ補ハントス。其ノ厚誼タル喻
フルニ物ナシ。然レドモ嚮ニ施行セシ所ハ。

公命ニシテ私惠ニアラス。サレバ私ニ報ルノ義ナク。又私ニ受ルノ理ナシ。我レ貪ナリト雖。藥ヲ賣テ生ヲ計ル母モ亦貪ヲ安ンズ。君等歸郷ノ日。能ク我が為ニ衆ニ謝セヨトテ。彼ノ百金ヲ還シケレバ。三士愕然反覆シテ。致ストイヘドモ聽カズ。涙ヲ揮テコレヲ説ケバ。涙ヲ收メテコレヲ辭ス。相争フコト多時。遂ニ蕉園固ク拒シテ受ケザルニヨリ。皆咨嗟シテ金ヲ懷キ。低回顧望久ウシテ去

ル還ルニ及ンデ衆ヲ集メ。其ノ情状ヲ話シケレバ。皆感激シテ泣カザルハナシ。因テ其ノ金ニテ生祠ヲ建テ。永クコレヲ祠ルトイヘリ。

上野國尾島村ニ魚ヲ販イデ纔ニ生ヲ營ム。谷平トイヘル者アリ。市ニ之ク途ニ安養寺村トイヘルヲ過ルトキ。墓所ノ樹上。群鴉喧噪スル殊ニ甚シキヲミテ。墓傍何ノ怪異カアルトテ。往テコレヲ睭ルニ。麗蛇ノ碑邊ニ

横夕ハルアリ。然ルニ其ノ蛇毫モ動カズ。因
テ近ヅキコレヲ觀レバ。棉線ノ綵縹ニテ。其
ノ尾ニ布囊ヲ着ク。試ニコレヲ啓ケバ。内ニ
金五十圓アリテ。卯兵衛ト封題セリ。谷平大
ニ駭キ考フルニ。該村ニ豊富ナルモノ。唯一
人ノ卯兵衛アルノミ。渠蓋シ市ニ適キテ。遺
セシナルベシトテ。乃其ノ金ヲ懷ニシテ市
ニユク。卯兵衛果シテ肆ニアリケレバ。急ニ
呼ンテコレヲ訊ヘバ。卯兵衛答ヘテ知ラズ

トイフ。谷平其ノ衆人中ナルヲモテ。斯クハ
答ヘシナルベシトテ市散シテ就テトフニ。
答フルコト初メノ如シ。是又他人ノ家ニア
ル故ナラントテ。歸ルヲ待テ。其ノ家ニ往ク。
卯兵衛イデ、何用ナリト問フ。谷平金囊ヲ
示シ。是必子ノ遺ス所ナラン。何為ゾ知ラス
トイフヤトイヘバ。卯兵衛ナホシラスト答
フ。是ニ於テ谷平愠テ曰。五十圓ノ金。題シテ
卯兵衛トアリ。子ニアラスジテ。他マタ何ノ

卯兵衛ナリヤトテ。囊ヲ取テ其ノ前ニ投ジ。金ヲ得タルノ故ヲ告グ。卯兵衛肯テ。吾レコレヲ遺ストセバ。既ニ吾ガ有ニアラス。然ルヲ子コレヲ拾ハミ。即子ノ財ナリ。吾何ゾ與ラシヤトイヘバ。谷平イハク。吾レ之ヲ拾フニ非ス。子ニ還サント思フガ故ニ舉ゲタルノミト。互ヒニ譲リテ取テトラス。卯兵衛又手熟按シテ曰。子強辯シテ我ニ抗ストイヘドモ。マタ能ク天ニ抗スルヤ。吾市ニ適クニ

當リテ。途墓ヲ拜スルニ事アルナシ。然ルニ子が過ルニ至ツテ。鴉噪キ蛇偃シ。子ヲ導キテ拾ハシム。天ニ非ズシテ何ゾ。吾ハ其ノ天ニ悖ヒテ。金ヲ取ルコトヲ要セズ。子マタ何ゾ天ニ違ヒテ。金ヲ吾ニ歸セシメントスルヤト。谷平亦説ヲナシテ曰ク。吾固ヨリ天ニ違フコトヲ欲セズ。然ルニ天人ヲシテ之ヲ拾ハシムレバ。則是他人ノ有ナリ。吾ハ義トシテ苟クモトラス。拾ヘバ則其ノ主ヲ訪フテ

還スノミ。今天苟クモコレヲ取ラザル。谷平
ヲシテ拾ハシム。因テ其ノ主ヲ尋ネテコレ
ヲ還ス。是天道ヲ奉ズルナリ。子焉シゾマタ
辭スルコトヲ得シヤト。言畢リ趨リテイヅ。
卯兵衛囊ヲ提ゲテ追ヘドモ及バズ。遂ニヤ
ム。時ニ歲華已ニ逼レリ。因テ米ニ苞金二分
ヲ饋リテ。谷平ノ壽ヲナシ。是ヨリ每歲例ト
ナストイヘリ。

昔孔子ノ孫子思衛ニ在リシ時。緼袍ヲ着テ。

二旬ニ九食ス。田子方之ヲ憫ミテ。人ヲシテ
狐白裘ヲ遺ラシム。然ルニ其ノ受ケザラン
コトヲ思ヒ。吾レ人ニ假セバ之ヲ忌ル。人ニ
與レバ弃ルガ如シトイハセケルニ。子思果
シテ受ケズ。子方曰ク。我ハ有リ。子ハ無シ。何
ノ故ニ受ケザルヤト。子思答ヘテ。吾レ之ヲ
聞ク。是ニ與フルハ。物ヲ溝壑ニ弃ルガ如シ
ト。仍貪シト雖。身ヲ以テ。溝壑ト為スニ忍ビ
ズ。是ヲ以テ受ケズトイヘリ。

第二十一章 勉強

耐忍トハ。事ヲナスニ。能ク患難苦辛ヲモ耐
ヘ忍ブヲ謂ト。勉強トハ。能ク倦怠ノ心ニ克
ク。奮起シテ間斷ナク。勉ノ勵ムヲ謂フ。

人ノ事業ハ。此耐忍ト。勉強トノ二ツニテ。成
就スルモノナリ。故二人ハ何等ニ生レツキ
ハ。發明ナリトモ。頼トスルニ足ラヌナリ。古
人ノ語ニ。少年才子長ジテ必奇ナラズトイ
ヘリ。コレ自ラ其才ヲ負ク。勉強ノ薄キヲ戒

ムルナリ。

古言ニ。勉強ハ幸福ヲ生ムノ母ナリト謂ヘ
リ。

又財貨ノ耗散セルハ。猶之ヲ償フコトヲ得
ベシ。光陰ノ消費セシハ。再ビ生ズルノ道ナ
シト謂ヘリ。

程子曰。君子ノ學ハ。日ニ新ナリ。日ニ新ナル
ハ。日ニ進ムナリ。日ニ進マザルモノハ。日ニ
退ク。未進マズシテ。退カザル者ハアラザル

ナリ。
淵明ノ詩ニ。盛年重ネテ來ラズ。一日再晨ナ
リ難シ。時ニ及テ當ニ勉勵スベシ。歲月ハ人
ヲ待タズト云ヘリ。
古ヨリ。聖ト稱シ。賢ト呼ハル、人生レナガ
ラニシテ然ルニ非ズ。日夜間断ナク。刻苦勉
強シテ。其ノ地ニ達ス。國ヲ治メ世ヲ裨益シ。
令聞榮譽以テ。天下後世ニ及ボスコトハ。皆
勉強ノ結果ナリ。

人ハ其ノ何業ヲ問ハズ。專精ニシテ勤勉シ。
倦懈ノ念發スルコトナクハ。卓越タル名聲
ヲ得。隨ツテ富饒ニ至ランコト。敢テ疑ヒヲ
容ベカラズ。才智ニ長ジ。事務ニ達スルモ。亦
此ノウチニ出ザルベシ。
古語云ヘルコトアリ曰。今日事アレバ。必之
ヲ今日ニ為セ。決シテ之ヲ明日ニ送ルベカ
ラス。
又曰。人富裕ナランコトヲ欲セバ。勉強ト節

儉トヲ忘ルベカラズ。

サレバ。人ハ幼穉ノ時ヨリ。能ク耐忍勉強シ

テ。一分時間モ。無益ニ送り費スナカレ

ズ。一タビスレバ已之ヲ百タビシ。人十タビ

スレバ已之ヲ千タビスト謂ヘルガ如クニ

シテ。其幸福ノ基本ヲ立ツベキナリ。

第二十二章 勵志

世ニ非常ノ効ヲ建テ。非常ノ業ヲ企ル人ハ。

又非常ノ行為アリ。蓋其ノ行為タル。天稟ノ

才能非常ナルニ非ズシテ。其ヲシテ確乎不

拔ノ域ニ至ラシムル。剛毅力ノ非常ナルヲ

以テナリ。

サレバ。事ノ輕重ヲ問ハス。業ノ大小ヲ論ゼ

ズ。目途ヲ正經ノ中ニ立テ。精神ヲ一途ニ凝

シ。罷勉シテ已ムナクハ。亦何事力成ラザル

コト有ラン。

何ノ世カ穎智ノ人アラザラン。何ノ世カ敏

才ノ人ナキヲ得ン。而シテ能ク為スコト無

キハ。勤勉ノ精神深カラザルノ故ナラズヤ。韓詩外傳ニ云。道近シト雖。行カザレハ至ラズ。事小ナリト雖。為サレハ成ラズ。

朱子ノ曰ク。陽氣ノ鼓スル所。金石モ亦透ル。精神一タビ到ラバ。何事カ成ラザラン。

岡寄秀民ハ。安永ノ頃。醫ヲ以テ。備前候ニ仕ヘ。國手ノ名ヲ轟カセシ人ナリ。秀民尚若カリシトキ。其ノ隣家ニ青地三之丞ト云ヘル人アリテ。頗ル射藝ニ勵精シ。夙夜射箠ヲ射

テ。練習スルヲ常トシ。晴雨寒暑ノ差隔ナク。遂ニ其ノ技大ニ進ミ。善ク狂猪ノ眼ヲ射ル。一日藩主ノ前ニ於テ。梅花ヲ的トシテ。五矢ヲ試ミシニ。皆其ノ莖ニ命中セリ。是ニ於テ。藩主深ク其ノ技能ヲ賞シ。更ニ寸八的ヲ射サセラレケルニ。後矢ハ前矢ノ筈ヲ射テ。鏃ニ及ベリトゾ。秀民日夜牆ヲ隔テ。彼ノ弦聲ヲキ。以為ク。青地氏ハ寒暑ヲ問ハズ。風雨ヲ論ゼズ。日夜勤勵刻苦スル斯ノ如シ。願

フニ我ガ業ノ如キ。夏宵ハ蚊帳ノ裡ニ在テ
學ブベク。冬日ハ爐傍ニ坐シテ之ヲ讀ムベ
シ。武人ノ弓馬練習ニ比スレバ。其ノ難易如
何ゾヤ。然ニ彼ハ其ノ困難ナル弓藝ヲ習脩
シ。夜ヲ以テ日ニ繼ク。我ハ容易ノ學術ヲ怠
リテ。光陰ヲ徒費セシハ。實ニ羞愧ニ堪ザル
也トテ。志ヲ勵マシテ。朝ニ仲景ノ秘書ヲ
讀ミ。夕ニハ偏華ノ蘊奧ヲ探リ。孜々トシテ
怠ラズ。隣家ノ弦聲讀書ニ和シテ。共ニ一層

ノ精カヲ増シ。相競フニ倦ムコトヲ知ラザ
ルニ至レリ。秀民終ニ其ノ名ヲ著シ。一州ニ
冠絶タリ。故ニ當時備前ニ於テ。技藝ニ練達
セシ者ヲイヘハ。必先指ヲ青地ノ弓術。岡寄
ノ醫業ニ屈セリトゾ。

讀書愈多ケレバ。愚ヲ覺ルコト愈明ラカナ
リ。愚ヲ覺ルコト愈明ラカナレバ。之ヲ醫セ
ント欲スルコト愈深シ。其念愈深ケレバ。勵

精刻苦スル愈切ナリ。其念愈切ナレバ。卒ニ
至妙ノ要域ニ達スベシ。

學問ノ要ハ徳ヲ脩メテ。智識ヲ博フシ。剛毅
ノカヲ以テ。能ク有用ノ才ヲ發起スルニア
リ。國ヲ富シ。兵ヲ強クシ。生民ノ福祉ヲ來ス
コト。皆這ノ裏ヨリ成就スベシ。

人ノ勝レテ榮譽トスルモノハ。金殿華屋ヲ
營ムニアラス。錦衣玉食ヲ嗜ムニアラス。支
体健康憂患ナキヲ言ニアラス。然ラバ則何

ヲ以テカ榮譽トセン。唯博學宏才。蓋世ヲ廣
益シ。其ノ名ヲ不朽ニ傳シノミ。

孔子曰。吾嘗終日食ハズ。終夜寢ズ。以テ思フ
益ナシ。學ブニ如スト。

荻生徂徠ハ。蓋世ノ鴻儒ナリ。書ヲ讀テ暮ニ
及ベハ。出テ簷頭ニ坐ス。簷頭亦文字ヲ辨ゼ
ザルニ至レバ。入テ燈下ニ就ケリ。晨旦ヨリ
深夜ニ及テ。手ニ卷帙ヲ釋ス。其ノ光陰ヲ惜
ムコト斯ノ如ク。平常ノ篤志想ヒミルベシ。

第二十三章 躬行

人ノ人タル所以ノ者ハ禮義ナリ。礼義トハ。容貌ヲ正ウシ。顔色ヲ齊ヘテ。以テ辭令ヲ順ニスルヲイフ。

古語ニ。善ヲ行フ人ハ。春園ノ草ノ如シ。其ノ長スルヲ見ザレドモ。日ニ増スベキ勢アリ。惡ヲ行フ人ハ。刀ヲ磨スル石ノ如シ。其ノ損スルヲ見ザレドモ。日ニ虧クルノ姿アリトイヘリ。

又云。明ヲ内ニ用ル者ハ。己レガ過チヲ見明チ外ニ用ル者ハ。人ノ過チヲ見ル。己レノ過チヲ見ル者ハ。天下皆己レニ勝ルコトヲ思ヒ。人ノ過チヲ見ル者ハ。天下皆己レニ如カザルコトヲ思フ。是智慧ノ分ル、所以ナリト。

凡ソ人トシテハ。互ニ敬禮ヲ表セスンバ。有ベカラズ。何トナレバ。人ハ各品位ヲ有シ。且交際待遇ヲ為スベキ者ニシテ。凡百ノ事物

二就テ。一二之ヲ利用セント。欲スルガ如キ
ニアラザルヲ以テナリ。

其レ然リ。然リト雖。其ノ敬禮ニモ品種アリ。
或ハ是ヲ鄭重ニスベク。或ハ是ヲ親密ニス
ベシ。是レ父母アリ。良師アリ。朋友アリ。賓位ア
リテ。交際待遇ニ。必殊別ヲ存スルガ故ナリ。
父母ハ我レヲ育成シ。良師ハ我レヲ教導シ
テ。人ノ人タル道ヲ諭シ。將來ノ福祉ヲ與ヘ
給ヘル。大恩アレバ。苟且ニモ其ノ礼讓ヲハ

紊スベカラズ。

明ノ張念芝ノ言ニ。敬以テ親ニ事フレハ親
安シ。敬以テ長ニ事フレハ長安シ。敬以テ下
ヲ御スレハ左右婢妾皆安シ。敬セザル所ナ
ケレバ。安ンゼザル所ナシ。故ニ曰ク。敬セザル
ベカラズト。

管子亦言ヘルコトアリ。曰ク。惠ハ主ノ高行ナ
リ。慈ハ父母ノ高行ナリ。忠ハ臣ノ高行ナリ。
孝ハ子ノ高行ナリ。主惠ニシテ懈ラザレバ。

民奉養ス。父母慈ニシテ懈ラザレバ。子弟順ナリ。臣忠ニシテ懈ラザレバ。爵祿至ル。子婦孝ニシテ懈ラザレハ。美名附クト。

田邊晋齋嘗テ友人ノ家ニ詣リ。科ラズ夜ヲ深シテ辭シ出ツ。然ルニ從者門ニ立チ。寒ニ堪ヘザルサマヲ見テ勞シテ曰ク。我レ人ノ家ニ往キ。自ラ饑寒ヲ覺ヘザルモ。汝等ヲシテ斯ノ如キニ至ラシム。是我レノ過チ也トテ。是ヨリ以降。公事ニ非ザレバ。夜行セサリシ

トゾ。是所謂主惠ニシテ懈ラザルモノ歟。

第二十四章 戒怯懦

事ニ臨テ懼ル、者。怯懦ニ非ルナリ。其ノ之ヲ過ラシヲ懼ル、ナリ。過テ改ムルニ吝シ。言ヲ出シテ履ムヲ能ハザル。是レ之ヲ怯懦ト云フ。世人或ハ怯懦ノ怯懦タル所ヲ知ラス。却テ怯懦ナラザル者ヲ怯懦ト為シ。動スバ。暴虎馮河ノ徒ニ與セントス。豈誤ラズヤ。

周武王ノ鑑銘ニ曰ク。爾前ヲ見テ。爾後ヲ慮

ル真西山曰ク。鑑ハ甚明ラカナリト雖。面ヲ見テ背ヲ見ズ。猶吾ガ一心明ラカナル所アルモ。亦蔽フ所アルガ如シ。患ヒハ常ニ照察ノ及ハザル所ニ伏シ。過チハ常ニ思慮ノ周カラザル所ニ生ズ。故ニ聖人ト雖。常ニ之ヲ憂フト。

吾人患ヲ防ガント欲セバ。互シク交ヲ擇ブベシ。交ル所正密ナラザレバ。必其累ヒトナル。小人ノ人ニ昵クヤ。脂飴ノ如ク。小人ノ人

ニ禍ヒスルヤ。毒藥ノ如シ。一タビ喉吻ニ入レバ。之ヲ悛メン。其難シ。然ルニ其小人タルヲ知ルト雖。同氣相憐ムヨリ。其交誼ヲ厚ウスル者アリ。是レ甚シキ匪類タリ。識見闇陋人ヲ知ルノ明無キモ。寡交謹守ナルトキハ。庶クハ大悞ナシ。孔子曰ク。約ヲ以テ之ヲ失フ者ハ鮮シト。實ニ萬全ノ良法ナリ。

行客アリ。大道ヲ以テ迂ト爲シ。別ニ捷徑ヲ尋ネ。或ハ泥濘ニ陷リ。或ハ荆棘ニ入り。終ニ

從フ所ヲ知ラサルニ至ル。是ヲ以テ小巧ヲ務
ムル者ハ。大拙多ク。小利ヲ好ム者ハ。大害多シ。

第二十五章 直諫

端正廉直ハ。家ヲ齊ヘ。身ヲ脩ムルノ基ナリ。
人苟モコレ無レバ。財貨ニ眩シ。榮利ニ迷ヒ
テ。遂ニ其ノ節操ヲ全フスル能ハズ。耻ヲ後
世ニ遺スニ至ルベシ。

古人ノ曰ク。百術アリト雖。一清ニ如カズト。苟
モ心清廉ナル時ハ。富貴モ淫スルニ足ラズ。

貧賤モ亦犯スニ足ラザルナリ。

古ノ名叟賢哲ハ。僉ナ廉清ニシテ寡欲ナリ。
故ニ每事謙讓ヲ先トシテ。其ノ令聞ヲ欲セ
ザレドモ。令聞自ラ高ク。施與ヲ專ニシテ財
貨ヲ散スレドモ。財貨亦自ラ生セリ。

大岡越前守忠相ハ。徳川氏ニ仕ヘ。當時公明
正直ヲ以テ。世ニ縦サレシ名士ナリ。初メ忠
相。山田奉行タリシトキ。山田ト紀州和歌山
トニ係ル訟事アリテ。年ヲ重ネテ決セズ。忠

相此ノ訟ヲ聽クニ及デ直ニ之ヲ審斷シ山
田ノ人勝ヲ得タリ。是素ヨリ裁決ニ苦ム程ノ
訟事ニハ非ザレドモ先ノ奉行和歌山ハ將
軍連枝ノ大藩タルヲ以。其ノ威權ヲ忌憚シ
テ。容易ニ決ヲ取ラザリシ也。時ニ吉宗當時
和歌山藩主ナリシガ將軍ト為ルニ及デ忠
相ノ直正ヲ嘉シ。舉テ江戸ノ町奉行トナシ
タリ。爾後屢審決ノ名望ヲ得。特ニ賊僧天一
ヲ痛斷セシヨリ。寺社奉行ニ榮轉シ。尋テ諸

侯ニ列セシト云。

關敝ハ支那ノ汝南平與ノ人ナリ。其ノ地ノ
大守第五常ニ仕フ。時ニ五常治レテ京師ニ
赴ントシテ。錢一百三十萬ヲ關敝ニ託セリ。
關敝之ヲ遮ラント欲スレドモ。當時兵亂ノ
起ル有テ。道路通ゼズ。然ルニ關敝故有テ貪
竄ヲ極メ。將ニ饑餓ニ逮バントス。時ニ其ノ
妻關敝ニ向ヒ。貧苦斯ノ如シ。一時彼ノ託錢
ヲ以テ。此ノ急ヲ救ヒ。後金ヲ得テ之ヲ償ハ

バ如何トイヒケレバ。闕敝曰。是不可ナリ。必
手ヲ觸ルベカラズ。路方ニ通ズルヲ待テ之
ヲ遮ルベシトテ。土ヲ穿テ之ヲ埋ム。既ニシ
テ疫癘主家ニ蔓延シテ。悉クコレニ死シ。僅
ニ九歳ノ孫兒ヲ遺セリ。第五常方ニ死セン
トスル時。幼孫ニイヒケルハ。吾レ在昔汝南
ヲ出シトキ。錢三十萬ヲ闕敝ニ託シ置ケリ
ト。其ノ孫成長ノ後。落魄シテ。汝南ニ往キケ
レバ。闕敝大ニ喜ビテ。百方之ヲ饗シ。彼ノ錢

ヲ掘出シテ悉ク與ヘシニ。其ノ人痛ク之
ヲ謝シ。吾ガ祖父ハ。三十萬錢ト言ヘリ。故ニ
其ノ他ハ受ケザル也トイヒケレバ。闕敝曰。
祖父君ノ三十萬云々ハ。蓋病ノ為ニ精神ヲ
擾サル、ノミ。實ニ一百二十萬錢ナリトテ。
悉皆之ヲ還セシトカヤ。

第二十六章 言語

古人言ヘルアリ。曰ク。凡稠人廣坐ノ中。口ヲ
極メテ論辨シ。自己ノ意見ヲ議スヘカラス。

強テ之ヲ議スル時ハ。唯其ノ妒ヲ惹ク而已
ナラス。抑亦人ヲ傷フ。豈過キアル者。其ノ中
ニ在ル無ランヤ。議論彼ニ到ラハ。彼言ハス
シテ心ニ憾ミン。又官長等ニ對シテ。直ヲ議
セハ。不清ナル者必怒リ。朋友ニ對シテ直ヲ
議セハ。不直ナル者。必憎ム。唯言語ヲ簡ニシ
テ。顔色ヲ和ラケ問ニ隨ヒ。即答フヘキノミ
ト。
賓僚内ニ在レハ言語動止ヲ慎シムヘシ。此

時ニ方リ或ハ耳語シ或ハ謗語失笑ナドス
ル時ハ。其ノ舉固ヨリ他ニ屬スト雖。賓僚ヲ
シテ之ヲ聽カシメハ。疑心暗鬼ヲ生スルノ
習ヒアリ。頗ル不快ヲ來ス。アルヘシ。
凡言語ニ聽ク可ラサル者三アリ。私恩ニ昵
テ大體ヲ知ラサルハ。庸婦ノ言。小利ヲ貪テ
大義ニ背クハ。市人ノ言。横心ヨリ發シ。横口
ヨリ出テ。復夕理義アルヲ知ラサルハ。野人
ノ言ナリト。

讀書錄ニ輕言戲謔ハ最事ヲ害ス。蓋言語ハ
妄ニ發セサレハ人之ヲ信ス。輕言戲謔ニシ
テ。避ル所ヲ知ラサルカ如キハ。誠實ノ言有
リト雖。人亦之ヲ信セスト云ヘリ。
洗心輯要ニ云。好シテ人ノ長短ヲ議スル者。
人ヲ責ルハ明ラカナリト雖。己ヲ責ルハ甚
昏シ。若ヨク己ヲ省ル時ハ。曷ソ人ノ長短ヲ
言フニ暇アラシヤト。
世範ニ。人情厚密ノ時。密私ノ言ヲ盡スヘカ

ラス。恐ラクハ一旦歡ヲ失ヘハ。前日ノ語。爭
訟ノ資トナルコトアリ。又歡ヲ失フノ時ニ
方ツテ。切實ノ語ヲナスヘカラス。恐ラクハ
忿氣平和スルノ後。前言愧ツヘシ。又我レ忿
怒スルノ際。彼隱諱ノ事ヲ指シテ。其ノ父祖
ノ惡ヲ暴ハスヘカラス。怨恨必骨髓ニ徹ス
ヘシト云云。

凡親戚故舊言語ニ因テ歡ヲ失フハ。必シモ
其ノ言語ノ人ヲ傷ルニ非スシテ。顔色辭氣

ノ暴勵ニ因テ。人ノ怒リヲ惹キ起ス者ナリ。且人ノ短ヲ諫ムルカ如キハ。其ノ語直切ナリト雖。溫顔以テ氣ヲ下セハ。縱令聽カサルモ。其ノ人怒ラス。若平常ノ言語。人ヲ傷ル所ナキモ。詞色俱ニ勵シケレハ。怒ラサルモ亦疑ヲ懷クヘシ。古人云。室ニ怒ル者ハ。市ニ色スト。其ノ怒ルニ方ツテヤ。言語必卑遜ナラス。人何ソ恠マサルヲ得ント。古語ニ。多門ノ家風ヲ生シ。多口ノ人禍ヲ生

ストイヘリ。凡テ言語ハ汗ノ如ク。出レハ則回ラサル者ナレハ。深ク省ミ慎ムヘシ。一時ノ急ヲ救ハンカ爲ニ。奇恠ナル語ヲ構ヘ。或ハ富裕ヲ示サントシテ。虚言ヲ逞フシ。或ハ己ノ才能ヲ售ントシテ。奇異ノ説ヲナシ。衆ニ對シテ大言スルカ如キハ。必後ニ悔アルヘシ。慎ンテ虚飾ヲ以テ。誇言スル勿レ。

貝原篤信ハ。小字ヲ久兵衛トイヒ。益軒又損軒ト號ス。筑前ノ人。儒ヲ以テ國侯ニ仕ヘ博

治篤學ヲ稱。海内ニ籍甚タリ。嘗旅中東ヨリ
西ニ遷ラント欲シ。途ヲ海上ニ取ル。同船數
人。互ニ相雜談ス。素ヨリ其ノ姓名ヲ知ルナ
シ。中ニ一書生アリ。經書ヲ講話ス。旁人ナキ
カ如シ。其ノ經文ヲ誦スル毎ニ篤信袴ヲ正
シ。恭謹以テ之ヲ聽ク。既ニシテ船岸ニ達シ。
別レントスルニ及ンテ。各姓名郷里ヲ告ケ
ケレハ篤信モ亦恭シク。吾ハ貝原久兵衛ト
イフ者ナリト。述ヘケルニ。彼ノ書生之ヲ聞
テ。忽顙頭汗ヲ生シ。其ノ姓名ヲ告ル能ハス。
赧然鼠竄シテ去ルト云。

修身小學讀本卷之十終

明治十五年五月六日版權免許
同年同月出版
同年十一月十一日再版御届
同年十二月出版

纂述人

福井縣士族 池田觀

定價金拾二錢

出版人

岐阜縣平民 山岸彌平

發兌人

東 富田彦次郎
崖 堂
東京橋區桶町
壹番地



池田 觀述

修身小學讀本

中等科第二級
卷十一

71
3
57

K110.1
7a
11